

自ら探究を深め、高富を愛する子を育てる「高富っ子タイム」

## 岐阜県山県市立高富小学校

岐阜県山県市高富 1079 番地

電話番号：0581-22-1066

E-mail：takatomisho@yamagatagifu.ed.jp HP アドレス：http://www.jp.mirai.ne.jp/~takatomisyo/

### 学校や地域に関する情報

#### (1) 学校規模

児童数 450 名、教職員数 36 名、学級数 16 学級

#### (2) 学校の教育活動の特色

山県市の拠点校、岐阜教育事務所管内研究指定校として、平成 12 年度から生活科・総合を主題研究として推進している。

#### (3) 地域の特色

山県市の最南に位置し、岐阜市と隣接しているため、店舗や住宅が多いが、田畑も残っている。地域の教育力が高く、保護者、地域の方々は学校教育に協力的である。

た課題を見付け、見通しをもち、課題解決の方法を自分で決めること。「調べる力」とは、課題解決のための情報・資料を収集、活用して分かりやすくまとめること。「伝える力」とは調べたことやまとめたことをもとにして、自分の考えを伝えたい相手に理解してもらえるように分かりやすく効果的に表現すること。「みつめる力」とは、学習を振り返り、自己の学びのよさや生き方に気付くことであるとした。

### 3. 内容

3 年生は、地域の特徴やよさに気付き、地域に住む高齢者とのふれあいから人の温かさを知り、地域とのかかわりを深めていくようにする。4 年生は、地域に流れる川を通じた地域の環境のよさや課題をとらえ、環境保全の大切さや自分とのかかわりについて考えるようにする。5 年生は、身近な地域の人々と米作りを通して先人の知恵を学び、受け継がれてきた文化と自分とのかかわりについて考えるようにする。6 年生は、高齢者や障がい者とのふれあいを通し、共に生きる意味をとらえ、自分にできることを考えるようにする。

どの学年もそれぞれ地域から学び、地域の人々と共に活動する構成になっている。

### 4. その他の特色

学年内の全クラスが同一カリキュラムで行っているが、本校の「付けたい力」（評価規準）をもとに、その年々の児童の実態、願いに即して、毎年、年間構想・単元指導計画の改訂を行っている。総合の学びに生かせるように教科での言語活動を充実させ、総合との関連を意図した指導を行っている。地域の人々との協同の活動ができるよう、地域の教育力を生かした単元構成の工夫を図っている。

## I 総合的な学習の時間の全体計画

### 1. 目標

総合の目標の 5 つの要素を受け、特に地域における自己の生き方を考えることができる児童を育てるために、「体験を通して、児童自ら課題を見付けること」「より探究的に追究できること」「協同の学びを生かすこと」「ふるさと高富への愛着をもつようにすること」に重点を置いて目標を設定した。

### 2. 育てようとする資質や能力及び態度

育てようとする資質、能力、態度を「他者とのかかわり」「学び方」「自分自身」の 3 つの側面や各学年の発達段階に分けて整理した。それぞれ「かかわる力」・「工夫する力」（「見通す力」・「調べる力」・「伝える力」）・「みつめる力」とした。

「かかわる力」とは、仲間や他者・地域社会と進んでかかわり、共に活動すること。「見通す力」とは、体験を通して、自分の願いに合っ

# 「総合的な学習の時間」全体計画

**学校課題**

- 対象への関わり方を広げたり、深めたりしている自分自身をとらえ、自己の学びのよさや問題点を明らかにしながら、進んで活動を発展させていく子を育てたい。
- さらに地域の方々に積極的にかわり、地域のよさを知り、地域を愛する子を育てたい。

**学校の教育目標**  
**思いやりをもち、進んでやりぬく子**  
 考える子 高め合う子 きたえる子

## 高富っ子タイム

**【本校の総合的な学習の時間の目標】**

- 身近なひと・もの・ことに体験を通してかわり、自ら課題を見つけ、仲間と共に主体的・創造的に課題を解決する力を育てる。
- 身近な地域の中で見つけた課題に対し、各教科で身に付けた知識や技能を総合的に働かせ、探究することを通して、地域に対する親しみと愛着を深めつつ、自己の生き方を考えることができる。

**山県市教育委員会の方針と重点**

- 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 〇山県市の6つの実践で具現する。
  - 「学び方指導」で主体的な学びづくり
  - 「学習形態の工夫」で学び合いのある学習づくり
  - 「発問・板書の工夫」でねらいのある授業づくり
  - 「よさの価値付け」でうおいのある学校づくり
  - 「連携」でみんなではぐくむ地域づくり
  - 「あいさつ」でほほえみのある仲間づくり

**【教科との関連】**

「かわりを通して、自ら追究し、学び続けていく子」

〇学ぶ楽しさを味わう教科の授業づくり  
 [教科のねらいを明確にし、学習内容の本質に迫る授業]

〇教科と総合との関連を考えた指導  
 [総合で扱う内容と教科の学習内容との関連]  
 3年「地域」  
 4年「環境」  
 5年「米・食文化」  
 6年「福祉」

**【指導方法】**  
 [「言語活動」を通じた教科指導との関わり]  
 ・各学年で各教科における言語活動を充実させ、総合の探究活動に生かすようにする。  
 ・その教科で身に付けた力を総合での学びに関連させる。

(指導方法の具体例)  
 ・ねらいを明確にした体験活動  
 ・学習形態の工夫(ペア・グループ交流・全体交流)  
 ・多様な言語活動の工夫(動作化・ペーパーサート・一枚絵・新聞・プレゼン発表・付箋活動・ミニホワイトボードの活用)  
 ・学習を振り返る書く活動の位置付け

【育てたい資質や能力及び態度】		【内容】				
評価の観点	付けた力	3年	4年	5年	6年	
		地域	環境	米・食文化	福祉	
A かわり力	・仲間や他者・地域社会と進んでかわり、共に活動する。					
B 工夫する力	・体験を通して、自分の願いに合った課題を見つけ、見直しをもち、課題解決の方法を自分で決める。					
B1 (見通す力)	・自分の計画に合わせて、必要な情報・資料を収集・活用し、よりよい方法を試し求めながら追究し、分かりやすくまとめる。					
B2 (調べる力)	・調べたことやまとめたことをもとにして、自分の考えを伝えたい相手に理解してもらえるように分かりやすく効果的に表現する。					
B3 (伝える力)	・意欲をもって進んで学習したり、学習を振り返ったりして、自己の学びのよさや生き方に気付く。					
C 見通す力						
内容	主な学習事項	学習対象	身近な地域の自然や歴史、高齢者やそれらの人々が行っている活動	身近な地域に流れる川の環境やそこで今起きている環境問題	身近な地域の人々と行う米作りと米にかかわる食文化	身近な地域に暮らす高齢者、障がい者とその暮らしを支える人々
		学習活動	・自然や歴史を中心とした地域の特徴やよさに気付く。 ・高齢者や地域の人々とふれあい、人柄にふれ、その温かさを知る。	・水生生物と川の汚れの関係、川のつながら、自分たちの生活とのかかわりや地域の環境のよさと問題について知る。 ・環境保全の大切さと自分たちの生活とのかかわりについて考える。	・米作りを通して生産の喜びを感じ、米作りの方法や収穫物の生かし方など文化や先人の知恵の素晴らしさを知る。 ・先人から受け継がれてきた文化の大切さや自分とのかかわりについて考える。	・高齢者や障がい者の存在に関心をもち、暮らしの実際に気付く。まちの施設や人の在り方のよさと問題点を理解する。 ・誰もが幸せに生活できることの大切さや住みよい暮らしづくりについて考える。
			・高齢者の方と一緒に花を植えよう。 ・公園や道路の掃除をしよう。	・石田川を探索して水の汚れを調べよう。 ・川の環境を守る取り組みを始めよう。	・地域の方と一緒にお米をつくらう。 ・作った米で収穫を祝おう。	・高齢者や障がいのある方と交流しよう。 ・共に生きるために自分ができることを見つけよう。
【学習評価】		・評価規準に照らした数値と記述による自己評価を行い、自己評価の仕方を身に付ける。声かけなどの指導・援助、評価カードの活用、相互評価や他者評価などにより、自己評価力を高める。 ・小単元ごとの教師による評価を累積する。評価を生かした指導を行うと共に、指導方法の改善につなぐ。				
【指導体制】		・学年カリキュラムを土台に学年で単元の修正・改善を図る協同体制 ・担任外の教職員による支援体制の確立 ・校内の学習環境の整備 ・児童の家族や地域の名人さんの活用 ・地域の施設(公共、福祉、社会教育など地域を取り巻く諸施設)の活用 ・校区の中学校及び大学等の教育機関との連携				

**【特別活動との関連】**

「自分たちの生活を自分たちでよりよくしようと積極的に働かせる子」

〇よりよい暮らしを創り出す学級活動  
 ・願いをもって仲間とかわりあいつながりながら企画・運営できる取組を工夫する。

学年行事  
 児童集会

**【道徳との関連】**

「自己を見つめ、仲間と共によりよく生きようとする子」

〇主人公の生き方に共感する指導  
 [価値に迫り、自覚を深める授業]  
 ・自己の生き方についての考えを深める発問を工夫する。

・内容項目2-(2)・3-(1)と学年の重点とする項目を共有する。

・家庭や地域との連携を図る。

# 高富っ子タイム「つきたい力」

平成18年8月 精選バージョン

		学年		3年生 4年生 5年生 6年生			
		めざす子どもの姿		学習を楽しむ子ども	学習を進める子ども	学習を生かす子ども	学習を創る子ども
A	仲間や人・地域社会に進んでかかわり、活動する力			仲間や地域と共に活動する	仲間や地域に進んでかかわる	仲間や地域と共に学ぶ	仲間や地域と共に生きる
		仲間や社会とのかかわり	コミュニケーション	・聞く ・伝える	・中心に気をつけてきく ・筋道立てて話す	・中心を理解して聞く ・筋道立てて話す	・意図をつかむ ・的確に話す
			他者理解、他者尊重	・他者のよさを学ぶ	・相手の立場を考え思いやる	・違いやよさを認める	・相互評価をする
			協働	・協力する・助け合う	・協調する	・協働する喜びや大切さを感じる	・働きかけて行動する
対象とのかかわり	・調べたい人やものをみつける	・対象のおもしろさに気づく ・地域で行われる工夫や努力・よさに気付く	・関心の対象を広げる・かかわりを深める ・人々の工夫や努力に気付き、社会への関心を広げる	・関心の対象を広げる・かかわりを深める ・歴史・政治・世界など、社会への関心を広げる			
B	興味のあることを見出し、取り組みや解決の計画を立て、自分なりに取り組み表現する力			学び方を身に付けるようになる	既習の学習を生かしたり、発展させたりしようとする	自分で判断し、解決していくようになる	問題解決の学習に広がりや深まりが見られるようになる
		問題解決を進める思考・判断		・事実や経験をふまえて考える ・比較する ・分類する	・事実に基づいて考える ・関係づけて考える ・時間・環境とのかかわりや変化について考える	・多くの事実に基づいて考える ・条件に目を向けて考える ・規則性・連続性などの見方・考え方を考える	・いろいろな事実を関連させ、多面的に考える ・要因と関連づけて考える
		B1 見通す力	課題作りの考え方	・自分の疑問から問題を見つける	・今までの違い（疑問）から問題を見つける	・これまでの経験や既習の学習とつなげて考え、課題をつくる	・事実を多面的にとらえて課題をつくる ・課題のよしあしについて考える
			追求の計画	・追求方法がわかる、選ぶ	・活動内容の計画を立てる（予想・方法・時間）	・より具体的な解決の計画を立てる ・計画を見直し、修正する	・よりよい追求方法を考える ・自分の発想や課題解決方法を大切にしている
		B2 調べる力	情報の収集・選択	・家族や身近な地域、人から資料を集める ・文章や絵地図などからとらえる	・施設やインターネットなどから資料を集める ・活用できる図表や文章を見つけ出す	・既習の方法を生かして収集する ・他の資料を結びつけて読み取る	・目的にあう資料の収集方法を選ぶ ・他の資料を関連づけて読み取る
			探求技能	・具体的に観察する ・基礎的なスキルを身につける（あいさつ、自己紹介、質問の仕方など）	・比較、数量で調べるなど具体的に観察する ・基礎的なスキルを身につける（電話の仕方・手紙の書き方など）	・見学・調査や体験を、事象の具体的な理解に活用する ・基礎的なスキルを身につける（敬語・依頼やお礼の手紙など）	・体験したことを、資料と合わせて効果的に活用する ・目的にあった有効な手段を選択する
			記録・まとめ	・観察や聞き取りなどで調べたことを表現する ・分かったことをノートに書く	・観察・調査の結果を表現する ・ノートに整理したり、表やグラフを使ったりする	・追求の過程や結果などを表現する ・ノート・表・グラフなどに整理する	・追求の過程や結果・考えなどを表現する ・課題に沿って、表や関係図などに整理する
		B3 伝える力	表現力	・相手や目的に応じ、適切に表現しようとする ・話すことがらを整理するなどして発表する	・相手や目的に応じ、適切に表現しようとする ・中心や組み立てを考えるなどして発表する	・目的や意図に応じ効果的に表現しようとする ・材料選び・配列・加工など編集して伝える	・目的や意図に応じ効果的に表現しようとする ・資料づかいを工夫し、意図を明確に伝える
			表現方法の工夫	・絵・図表・絵地図・動作・フリップボード・手紙などで表現する	・図表・地図・模型・写真・文章・ポスター・新聞などで表現する	・図表・新聞・レポート・HPなどで表現する	・図表・新聞・スピーチ・討論会などで表現する
		C	学習を振り返り、自分の学びのよさに気づくことで、さらに意欲をもって学び、生き方の発見につなげる力			自分のできたことをみつけ意欲をもつ	自分の学びのよさを知り、自信をもつ
自己へのかかわり	意欲			・活動を通し興味・関心をもつ	・疑問や目的意識をもって取り組む	・疑問や目的意識を持ち、自分なりに対象や方法を考えて取り組む	・個人の課題意識を持ち、多様な方法を工夫しながら継続してかかわる
	自己をみつめる力			・できたことをみつめる ・教師と共に単位時間の「つきたい力」（評価の窓）を理解し、振り返る	・できたことや過程をみつめる ・教師と共に単位時間や小単元の「つきたい力」にそって振り返る	・俯瞰や再構築をする ・自分の取り組みのよさと課題に気付く ・単位時間や小単元の「つきたい力」にそって振り返る	・俯瞰や再構築をする ・よさや課題を自覚し、次へ生かす ・自分たちでの評価の窓を考える
	自己の生き方を考える			・身近な地域社会に関心をもち、親しみやあこがれをもつ	・追求したことを、日常生活で実践していこうとする	・追求したことを、自分とのかかわりの視点から、さらに深めたり発展させたりしようとする	・追求したことを、自分とのかかわりの視点から、さらに深め、地域社会で実践していこうとする

第5章



## II 総合的な学習の時間の実践事例

### 第5学年「お米から学ぶ」

#### 1. 年間指導計画

**第5学年 「高富っ子タイム」 年間構想 22年度**

学期	1 学期 (30時間)												2 学期 (33時間)												3 学期 (12時間) 計75時間																																			
	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月																																						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																				
生育	種まき	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え																																				
作業状況	種まき	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え	田植え																																				
主な学習内容	<p>1【お米を作ろう】(11時間) 4月～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① お米を知ろう A</li> <li>② 米の作り方を調べよう。 A B1 B2</li> <li>③ 米の作り方を調べよう。 A B1 B2</li> <li>④ 願いを看板に描く</li> </ul>												<p>2【お米を育てようI】(19時間) 6月～10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① お米を育てよう。(GT) A</li> <li>② 安全でおいしいお米を作ろう。(GT) A B2</li> <li>③ 水管理、草取り、病気、害虫、雑草などの世話へ</li> <li>④ 世話をする計画・お米当番作り</li> <li>⑤ お米当番を始めよう。 A C</li> </ul>												<p>3【お米を育てようII】(10時間) 9月～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 収穫しよう。 A B1 B2 C</li> <li>② 稲刈り、乾燥、脱穀、精米の体験</li> <li>③ 来年の米作りのための準備について</li> </ul>												<p>4【収穫を祝おう】(11時間) 9月～11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 収穫した米のいい炊き方を調べよう。 A B1</li> <li>② 準備をしよう。 A B3</li> <li>③ 収穫祭で行うことを考える</li> <li>④ 野外学習でお米を食べることを通して収穫祭を開こう。 A B3</li> <li>⑤ 【もつとお米のことを知ろう】(12時間) 9月～11月</li> <li>⑥ 今後の学習への見通しをもとう A B2</li> <li>⑦ これからどんなことを学んでいきたいかお米をどうしていきたいかを考え、自分達のお米のいいさを確かめる。</li> <li>⑧ お米の栄養等調べたいことを調べる。 B1</li> <li>⑨ 玄米や白米を食べ、自分達のお米のいいさを再認識する。</li> <li>⑩ まとめ、振り返りしよう B3 C</li> <li>⑪ 先人が築いた知恵や食文化について自分達の米作りについて</li> <li>⑫ 米作りを通して成長した自分について</li> </ul>												<p>5【お米から学んだこと】(12時間) 1～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 収穫した米の利用法を話し合おう。 A B1</li> <li>② 4年生に引き継ぐ会</li> <li>③ お米に名前をつけ、ちらしづくりをしよう。</li> <li>④ グループごとに準備</li> <li>⑤ 休耕田の在り方、世話 B1</li> <li>⑥ 4年生への引き継ぎ会 A B3</li> <li>⑦ よりわかりやすく話をしよう。</li> <li>⑧ 自分の1年を振り返ろう。 C</li> </ul>											
学習のねらい	<p>A 関心の対象を広げ、関わりを深める 協働する喜びや大切さを感じる</p> <p>B 多くの事実に基づいて考える 条件に目を向けて考える 規則性・連続性などの見方・考え方をする</p> <p>B1 これまでの経験や既習の学習とつないで考え、課題をつくる より具体的な解決の計画を立てる 計画を見直し、修正する</p> <p>B2 既習の方法を生かして情報を収集する 見学・調査や体験を、事象の具体的な理解に活用する 追究の過程や結果などを表現する</p> <p>B3 目的や意図に応じ、効果的に表現しようとする 材料選び・配列・加工など、編集して伝える</p> <p>C 疑問や目的意識をもち、対象や方法を考え取り組む 俯瞰や再構築をする 自分の取り組みのよさと課題に気づく 追究したことを、さらに深めたり、発展させたりしようとする</p>																																																											

**「お米から学ぶ」**  
分野：食・生きる力

テーマ設定の理由  
「米」といえば日本と言われ、くらしいお米は日本人にとって身近な食べ物であり、大切な食糧である。また、のどかな田園風景は日本を代表する景色の一つに挙げられる。  
しかし、食生活の変化や時代の移り変わりの中で米の生産量、消費量は減り、田んぼ自体も減ってきている。それは、この高富校区でも例外ではない。日本人にとって最も身近にある食べ物であるお米は、いつの間にか何となく食べる物になってしまった。  
そこで、実際にお米をつくることを通して、自然、環境、農業、食について学んでいくことが大切になる。人間は自然の中で生きていくものであり、環境に働きかけながら生活をしている。また、命を育て、その命をいただくという農業の営みは人間生活の基本であり、食はまさに生きることそのものである。このお米づくりを通して、子どもたちは地域の方や仲間とともに生きていく力を身につけていく。  
私たちは、この学習を通して子どもたちに、食べるという当たり前のことが、実はたいへんな苦勞の上に成り立っており、人間はその苦勞を様々な工夫と力を合わせることで克服してきたことを知り、自分達の生活を高めていこうとする力を身につけてほしいと考えた。

目標  
地域とかかわりながら学ぶ中で、筋道立てて考え、自分で判断して課題解決学習を進め、もの生産やそれにまつわる文化について、自分とかかわらせて考えることができる。

内容  
・ 米作りを通して、生産の喜びを感じ、米作りの方法や収穫物の知識が身に覚えられ文化や先人の知恵のすばらしさを知る。  
・ 受け継がれてきた文化の大切さや自分とかかわりについて、考えるようにする。

#### 2. 単元計画

##### (1) 単元設定の理由

米は古来から日本人の食生活には欠かせないものである。しかし、食生活の変化や時代の移り変わりの中で、米の消費量は減り、地域で作られている米とのかかわりも少なくなっている。そこで、実際に米をつくることで、自然、環境、農業、食文化について実感をもって学んでいくことが大切であると考えた。そして、その活動を通して、地域の方や仲間と協同して生きていく力を身に付けさせたい。子どもたちにとって食べるという当たり前のことが、実は大変な苦勞の上に成り立っていること、人はその苦勞を様々な工夫と協同することで克服してきたことを理解し、自分たちの生活を高めていこうとする力を身に付けてほしいと考えた。

##### (2) 単元の目標

地域とかかわりながら学ぶ中で、筋道立てて考え、自分で判断して課題解決学習を進め、ものの生産やそれにまつわる文化について、自分とかかわらせて考えることができる。

##### (3) 単元の評価規準

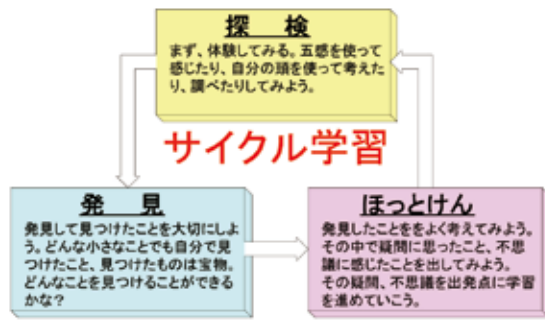
「かかわる力」：関心の対象を広げ、かかわりを深める。協働する喜びや大切さを感じる。

「工夫する力」：多くの事実に基づいて考えたり、条件に目を向けて考えたりする。

「みつめる力」：疑問や目的意識をもち、対象や方法を考え取り組む。自分の取組のよさと課題に客観的に気づき、見直しをを図ることができる。追究したことをさらに深めたり、発展させたりしようとする。(詳細は年間構想参照)

### 3. 学習活動の実際

本校の5年生は、伝統的に「米作り」をテーマ学習としている。しかし、これまでの実践から、学習が勤労・生産にやや偏っていて、米を通して食文化を考えたり、自分とのかかわりを感じたりする探究的な学習になっていなかったのではないかと反省した。そこで、年間を通して、すべての小単元の仕組みを以下に示す「探検・発見・ほっとけん」というサイクル学習とし、児童が自ら課題意識をもち、探究を連続させて学んでいくようにした。（探究を連続させる「サイクル学習」より）



また、単元の中で仲間との言語活動による交流場面を意図的に設けることによって、活動を活動しただけで終わらせるのではなく、活動の価値に気づき、自分の考えを深めたり、次の活動への意欲をもったりすることができるようにした。

#### (1) 「お米を育てようⅠ」の実践から

この小単元では、従前は体験後の交流が位置付いていなかったため、体験することによって学んだことから、一人一人が疑問や課題意識をもつことができなかつた。そこで、以下のように、代掻きと田植えの後に交流を行う時間を設けた。また、米作りを成功させるために、田植え後に自分が気になっていることを考え、まとめる活動を増やすように



大変だった田植え

#### 従前の単元指導計画

1, 2	田起こし体験
3, 4	代掻き体験
5, 6, 7	田植え体験
8時	今後の苗の生長で気になることを出し合う
9, 10	これからの米作りで気がかりなことを調べる

#### 改善後の単元指導計画

1, 2	田起こし体験
3, 4	代掻き体験
5時	田起こし・代掻きをして発見したことの交流
6, 7, 8	田植え体験
9時	田植えをして発見したことの交流
10時	自分が調べていきたいことを決める。

した。

実際に、田植え後の交流場面では、一人ひとりが田植えをして発見したことを付箋に書き出し、整理する言語活動を仕組んだ。まず、体験を通して明らかになった点や自分の考えを付箋に書き出した。その付箋をグ



グループでの付箋活動

ループで分類していくことを通して、自分と同じ考えや自分では気付かなかった仲間の発見や疑問に気付くことができた。また、意図的に「カラスの足跡があったけど、カラスに稲を食べられないか心配だ。」など、次の活動につながる発言を採り上げることによって、新たな課題意識をもち、探究していこうとする意欲を高めることができた。

このような活動を仕組むことで、児童は、田植えの大変さについて改めて実感し、大変な思いをして植えた米に愛着をもち、その後の米作りに対する願いや意欲をもつことができた。

#### (2) 「もっとお米のことを知ろう」の実践から

この小単元では、従前は、野外学習における収穫祭で、収穫した米を食べた後は、米に対する関心や学習の広がりがなかなかもてないことを受け、もっと米のことを知りたい、調べていきたいという追究意欲が高まっていくようにしたいと考えた。

そこで、米を収穫した喜びや、収穫祭で食べ

た自分たちの米はおいしかったという思いを想起させ、収穫した米をどのように利用して



野外学習での収穫祭

いきたいかを交流する授業を仕組んだ。児童は、グループで交流することにより、始めは単に「食べたい。」だけであった意見から、仲間の「お世話になったゲストティチャーさんに食べてもらいたい。」「転校したNさんに送ってあげたい。」などの多様な考え方を知り、「Nさんやゲストティチャーの～さんには、『自分たちはこんな食べ方をしたよ。』と手紙を添えたり、作り方を教えたりして食べてもらいたい。」と自分自身の考えをふくらませることができた。この話し合いを経ることにより、その後、児童は意欲をもって米のどんなことをどのように調べていくのかを決め出すことができた。そして、児童の中から出された疑問から、玄米を炊き、精米した米との違いを比べる活動をしたり、世界の米料理や身近に伝わる米料理を調べて、実際に調理をしたりする活動につながっていった。



お米の料理に挑戦

このように、交流活動を通して自分たちが収穫したお米を食べてそのおいしさに改めて気づき、さらにお米についての関心を高めていくことができた。そして、児童は、調べ学習や実験、調理を通して、米の栄養価の高さに気付いたり、世界や地域の米料理を調べて調理したりすることによって、米のよさを改めて実感し、米につ

いてさらに愛着をもつことができた。

### (3) 「お米から学んだこと」の実践から

この小単元は、年間最後の単元である。これまでの米作りを通して学んだことをまとめるという必然を児童にもたせていきたいと考えた。そこで、前の単元で児童から出された「自分たち以外の人にも自分たちがつくったおいしいお米を食べてもらいたい。」という願いを想起させ、自分たちのお米のよさが伝わるような米のネーミングを考える授業を仕組んだ。

児童からは「おいしさが分かる名前がいいな。」「88人みんなががんばったということが分かるように88という数字を入りたいな。」



グループで考えた米の名前の発表

など、どんどん意見が出された。ネーミングを考えるという活動を通して、今まで活動してきた米作りのことを振り返ったり、自分たちの米に対する愛着をより一層増したりすることができた。そして、学年で決まった米の名前を使い、給食の米飯として出してもらったり、食べてもらった家族へのインタビューを交流したりして、米作りをしてきた価値を再確認することができた。

このように全校の児童や家族にお米を食べてもらうことによって1年間の米作りの取組について振り返り、自分と米とのかかわり方や今後の在り方を見つめ、米作りの苦労や喜びを再確認して、多くの人に支えていただいたことへの感謝の気持ちを深めることができた。

以上の1年間の実践から、自ら課題を見付け、見直しをもって課題解決に取り組み、仲間と協同して学ぶことによって、「米」「食文化」に対する新たな見方や考え方を獲得し、自ら探究的に学ぶ子を育成することができた。